

子育ての参考にしたい人

母親と実家の母との強い結びつき

「子どものしつけや教育などを考えていく上で、子育ての具体的な目標やお手本、参考になるような人」が「いる」と答えた母親は31.8%で、「いない」は68.2%であった。

子育ての参考にしたい人として、複数回答であげられた順位が図1-4である。第1位の「実家の母」については、年少児が最も高い数値を示していた。

また、長男長女の子育てをしている第1子の母親と第2子以降の子育てをしている母親（以下その他の母親と記す）を比較すると、第1子の母親は第1位に「実家の母」51.4%をあげており、その他の母親は、「近所の友人・知人」44.5%であった。第3位、第4位は同じ順位であったが、第1子の母親は第5位に「園の先生」、その他の母親は「姑」をそれぞれあげていた。

実家の母をあげた代表的な理由としては、「何かあったときは母だったら、どうしたかなとすぐに考えてしまう。結局は自分が育てられたようにしか子育てはできない。意識しようがしまいが母の育て方で現在の自分の価値観ができていくので」（年中男子/第1子/35歳）

園の先生については、「ご自分も3人のお子さんを育てておられる育児経験豊かな方で、包容力があり、いつも一人ひとりの子どもの立場になって考えてくれます」（年少女子/第1子/32歳）が特徴的な意見であった。

はじめての子育てをしている母親にとって、自分を育てた実家の母は、一番身近な子育てのモデルである。同様に、はじめて子どもを集団生活に入れて出会った園の先生は、母親の育児支援をしてくれる新たな母親的機能の出現である。また、園児と小学生の母親

とを比べると、年齢上昇とともに、とくに参考とする人はいないと回答する母親が増えていた。しかし、「学校の先生」をあげた母親は小1生の8.7%よりも小2生15.6%が多く、同じく「学校の先生」をあげた中で、第1子の母親は38.8%であったが、その他の母親は61.2%と多かった。小学校入学当初の1年時では、いままでの園での先生と親との関係と、学校での先生との関係が大きく隔たり、戸惑いを感じると、他の設問の自由記述欄に書かれていた。とくに、はじめての経験である第1子の親にその傾向が顕著であることが、これらの数値にも表れたと思われる。

学生時代の友人や職場の同僚を参考にする常勤者

母親の就業状況別で「子育ての参考にしたい人」を比較したのが図1-5である。

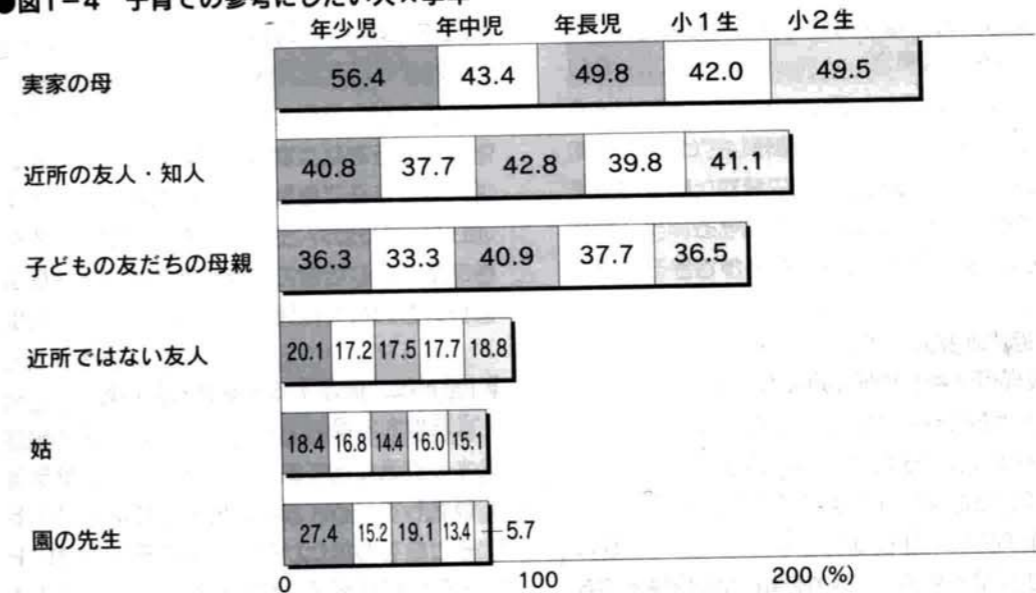
子育ての最も参考にすると限定すると、子どもの学年、出生順位、母親の就業状況などの属性を越えて、すべての母親が、「実家の母」29.9%を第1位にあげていた。しかし第2位から第5位までの「近所の友人・知人」16.0%や「子どもの友だちの母親」13.7%、「近所ではない友人」9.2%、「その他の人」7.8%も多くは友人を含むため、「友人」という総称で括ると、実家の母よりは「友人」のほうが多い結果になる。

とくに、常勤者は職場の人や恩師、さまざまな知人を含む「その他の人」を第2位にあげていた。また、「近所ではない友人」と知り合った場所としては、「学生時代」23.6%、「職場」18.1%、「以前住んでいた所」16.0%、「習い事・サークル」12.5%などがあげられていた。

また、「有名人やタレント」では、三浦百恵、アグネス・チャン、五十嵐淳子、原日出子、榎原郁恵など、多くは母親と仕事を両立

しているタレントであり、ダイアナ妃、吉行あぐり、マザーテレサなど時代を映し出す話題の人たちが数多く記述されていた。

●図1-4 子育ての参考にしたい人×学年



●図1-5 子育ての参考にしたい人×母親の就業状況

